

令和3年度の大雪に伴う除排雪事業の検証と今後の対応策について

建設水道部都市整備課
令和4年9月

令和3年度の大雪に伴う除排雪事業の検証と今後の対応策について

1 趣旨

昨シーズンの記録的な大雪を踏まえ、雪対策を円滑かつ効果的に推進することを目的とした「いい冬いしかり検討委員会」において、市が昨シーズンに行った除排雪の対応について検証を行い、課題などを明らかにするとともに、今後の大雪の対応策を取りまとめた。

2 気象概況と大雪時の基準について

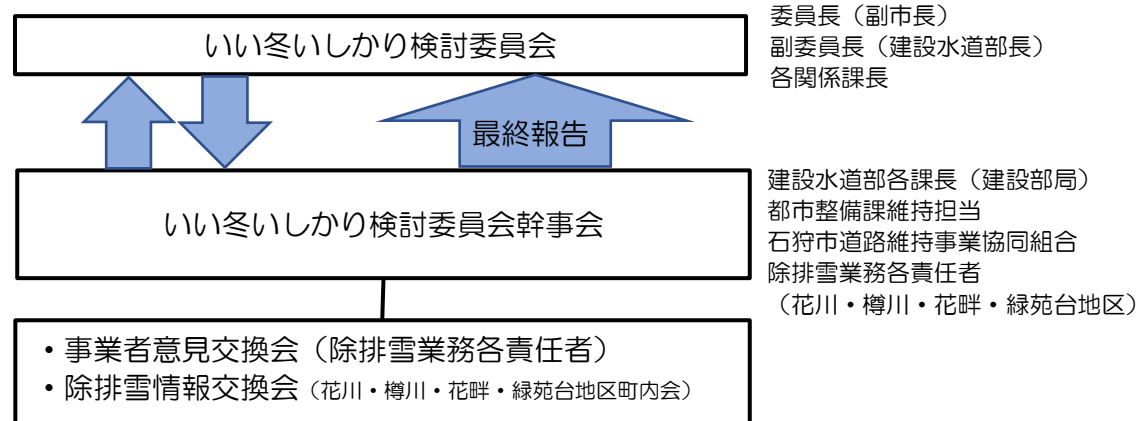
(1) 昨シーズンの除排雪作業に影響を及ぼした気象概況について

- 花川・樽川・花畔・緑苑台地区で1日の降雪量が20cmを超えた回数が6回、10cmを超える日が2日以上続いた回数が5回あり、除雪作業が遅れるなど市民生活に大きな影響を及ぼした。
- 暴風雪、大雪警報が発表された際には、降雪量が前項まで多くななくても、いたるところで吹き溜まりが発生し、除雪作業が遅れが生じた。
- 大雪と低温の影響により、1月中旬以降、全市において平年の積雪深を20cm以上超える状態がシーズン終了まで続き、最大で2倍の積雪深となったことから、排雪作業が大幅に遅れ、市民生活に大きな影響を及ぼした。

以上のことを踏まえ、下記の状況が発生した時に「大雪」と判断する。

- ①一度の降雪量が20cmを超える
- ②一度の降雪量が10cmを超える日が2日以上続く
- ③暴風雪、大雪警報発表
- ④平年の積雪深を20cm以上超える期間

3 検証体制



4 検証項目について (※詳細は2～7ページ)

(1) 大雪時の作業体制の確立

- ①大雪の判断や除雪の優先順位の検討
- ②大雪時の圧雪管理の検討
- ③大雪時の協力体制や連絡体制強化の検討
- ④大雪時の排雪作業の検討

(2) 持続可能な除排雪体制の確立

- ①ダンプトラックの確保や排雪作業体制の検討
- ②雪堆積場の増設や空き地利用の検討
- ③除排雪作業の安全対策強化の検討
- ④市民への除排雪に関する情報発信の検討
- ⑤その他持続可能な除雪体制の検討

(3) 関係各所との連携

5 大雪時の対応 (※詳細は8ページ)

(1) 【大雪時の判断基準】

- ①【Case1 短期的な大雪の対応】
- ②【Case2 長期的な大雪の対応】

(2) 大雪除雪体制【Case1】

- ①大雪時の除雪の優先順位
- ②その他大雪時の除雪体制
- ③大雪時の応援体制や連絡体制強化
- ④関係各所との連携

(3) 大雪除雪体制【Case2】

- ①大雪時の圧雪管理

6 経過

- 令和4年4月25日 第1回いい冬いしかり検討委員会
- 令和4年4月26、27日 除排雪事業者ヒアリング
- 令和4年5月10、11日 除排雪情報交換会 (対象: 市街地町内会)
- 令和4年6月8日 第1回いい冬いしかり検討委員会幹事会
- 令和4年6月30日 第2回いい冬いしかり検討委員会
- 令和4年8月18日 第2回いい冬いしかり検討委員会幹事会
- 令和4年9月1日 第3回いい冬いしかり検討委員会

4 検証項目について

		問題点・課題	今後の対応
検証項目 (1) 大雪時の作業体制の確立	①大雪時の判断や除雪の優先順位の検討	1. 大雪の判断基準の設定 【問題点】 一度に大量の降雪が何度もあったことや、その雪が融けずに残ったことで、雪の置き場所が無くなり、圧雪が厚くなった。また、排雪が遅れたことから、暖気により路面がザクザクの状態となり、市民生活に大きな影響を及ぼした。 【課題】 大雪の判断基準を設定し、大雪と判断したときには、その対応へシフトすることが必要。	1. 大雪時の対応へシフトする判断基準を設定 2. 大雪時の対応へシフトする際の市民への周知 3. 深夜に大雪となった場合、重要路線など除雪路線の優先順位を設定 4. 大雪が続いた場合の歩道除雪の優先順位を設定 5. 大雪時の幹線・準幹線道路の除雪基準を設定
		2. 深夜に大量の降雪があった場合の除雪路線の優先順位の決定 【問題点】 深夜に大量の降雪となった時、通勤・通学時間帯の道路交通に支障が出る状況となった。 【課題】 バス路線を優先して除雪するなど除雪路線の優先順位を決め、通勤・通学時間帯までに道路交通を確保するための除雪方法のマニュアル整備が必要。	具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●過去の実績から、降雪量や積雪深、警報などから大雪と判断する基準を設定し、それをもとに大雪への対応へシフトする。 ●大雪対応へシフトする際には、HPや市公式LINEで対策方法、及び市民へのお願いについて周知する。 ●深夜に大量の降雪となった場合の除雪方法についてマニュアルを整備する。 ●大雪が続き、通勤・通学時間帯までに歩道除雪が完了しないと判断した場合の、歩道除雪路線の優先順位を設定する。 ●大雪時の幹線や準幹線道路は、間口処理を後回しにし、道路交通の確保を優先して、通勤・通学時間帯までの作業完了を目指す。
		3. 大雪が続いた場合の歩道除雪の優先順位の設定 【問題点】 大雪が続いた後、除雪対象路線である歩道が除雪されていなかったことや、学校付近の歩道において、除雪が不十分で児童・生徒の通学の際、危険との指摘があった。 【課題】 教育委員会との連携も含め、大雪時の歩道除雪の優先順位の設定が必要。	
		4. 大雪時の幹線・準幹線の間口処理について 【問題点】 大雪時の除雪作業は、幹線・準幹線道路の間口処理に時間がかかり、通勤・通学時間帯までに除雪が完了できないことがあった。 【課題】 大雪時には道路交通の確保を優先するなど、基準の整備が必要。	

		問題点・課題	今後の対応
検証項目(1) 大雪時の作業体制の確立	②大雪時の圧雪管理の検討	1. 圧雪管理の徹底 【問題点】 昨シーズンは各路線の圧雪管理目標を維持できず、車両の通行が厳しい状況となった。 【課題】 各路線の圧雪管理方法について検討が必要。 ①幹線道路（管理目標：5cm） 【問題点】 路面整正作業により、圧雪管理目標は概ね達成していたが、路側帯の雪堤が高くなり、その処理が追い付かず、車道幅が狭くなった。 【課題】 雪堤処理（掻き出し全排雪）のタイミングの検討が必要。 ②準幹線道路（管理目標：10cm） 【問題点】 幹線排雪に時間を取られ、準幹線の処理が追い付かない状況が散見された。 【課題】 幹線と同様に準幹線の適切な排雪のタイミングの検討が必要。 ③生活道路（管理目標：20cm） 【問題点】 大雪により雪を積み上げる場所がなくなり、路面整正作業ができず、市民生活に大きな影響を及ぼした。 【課題】 暖気が入るまでに排雪が追い付かない地区における圧雪処理の方法について検討が必要。	1. 大雪時における各路線の圧雪管理方法を整理 具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●大雪時の幹線道路については、雪堤が高くなる前に全排雪の実施を目指す。 ●大雪時の準幹線道路については、学校のグラウンドなどを利用し、生活道路のザクザク路面を処理した際、雪の一時堆積場所としての利用を見据えた排雪を目指す。 ●大雪時の生活道路については、路線沿いの公園や準幹線道路に雪を一時堆積するなどして、早期に圧雪路面の解消を図る。
		問題点・課題	今後の対応
	③大雪時の協力体制や連絡体制強化の検討	1. 除排雪作業の進捗状況の把握 【問題点】 昨シーズンの大雪時、通勤・通学時間帯までに除雪作業が完了していない路線があったが、どの路線が作業を終えていないか把握できない状況であった。 【課題】 除排雪状況について把握するため、連絡体制の強化などの検討が必要。	1. 現場と除雪センター、除雪センターと市との連絡体制の見直し 2. 除雪機械へのGPSシステム導入による稼働管理の検討 3. 道路維持組合内部における協力体制の強化 4. 維持担当以外による「建設水道部道路パトロール班」の継続
		2. 石狩市道路維持事業協同組合内の協力体制の構築 【問題点】 大雪時の除排雪作業で遅れが生じた場合の協力体制について、石狩市道路維持事業協同組合（以下「道路維持組合」という。）内部で調整が図られてない状況があった。 【課題】 道路維持組合内部で連携して作業を行うことを前提とした体制の構築や、大雪時でも対応可能な除雪工区や道路維持組合内部の体制の見直しについても検討が必要。 3. 市職員のパトロール強化 【問題点】 昨シーズンの大雪時、維持担当だけで全ての道路状況を把握できなかった。 【課題】 維持担当以外で組織したパトロール班で大雪時の道路状況の把握に努め、的確な作業指示などを行い、効果的であったことから、今シーズンも引き続き、維持担当以外のパトロール班の継続について検討が必要。	具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●連絡体制のフローを見直し、現場の状況を確実に伝える体制を整備する。 ●リアルタイムで除雪機械の稼働状況が把握可能な、GPSシステムの導入を進める。（令和4年第3回定例会補正予算） ●大雪時、スムーズに道路維持組合内部で連携ができるよう、事業者間のコミュニケーションの充実を図る。 ●大雪時に「建設水道部道路パトロール班」を組織し、道路状況の把握に努め、的確な作業指示を行う。

検証項目(1) 大雪時の作業体制の確立	④大雪時の排雪作業の検討	問題点・課題	今後の対応
		1. 大雪時の排雪作業に遅れが生じた場合の対策 【問題点】 大雪により排雪作業に大幅な遅れが生じ、市民生活に大きな影響を及ぼした。 【課題】 道路維持組合内部の応援について協力体制の構築などの検討が必要。	1. 道路維持組合内部の応援について協力体制の検討 2. 国などへの支援要請によるダンプトラックの確保 3. 緊急雪堆積場の検討 4. 花川南地区の排雪方法の変更
		2. 昨シーズン実施した新たな排雪作業の対応 【問題点】 (ア) 国の支援によるダンプトラックの確保 (イ) 公園・学校グラウンド・調整池への雪入れの実施 (ウ) 花川南地区の排雪方法を町内会単位から一部路線単位へ変更し、生活道路の雪を排雪を終えた路線への一時堆積を実施 (エ) 交通量の多い日中の幹線道路排雪の実施（通常は交通量の少ない夜間作業） これら対策を実施したことにより、排雪作業の遅れの解消に一定の効果はあったが、計画的なものではなかったため、いくつかの問題点も散見された。 【課題】 昨シーズン実施した対策について、今シーズンの実施に向けて検討が必要。	具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●道路維持組合内部の応援体制について連携を図る。 ●大雪時には国などへダンプトラック支援を要請し、排雪作業のスピードアップを図る。 ●大雪時の緊急雪堆積場として、雪の受け入れが可能な公園・学校グラウンド・調整池などをスムーズに使用できるよう準備を進める。（令和4年第3回定例会補正予算） ●花川南地区の排雪方法について、町内会をまたいだ路線を先行して実施するなど、大雪時にも対応できる準備を整える。 ●大雪時において、交通量の多い日中でも幹線道路の排雪を行うことについて検討を進める。
検証項目(2) 除排雪体制の確立	①ダンプトラックの確保や排雪作業体制の検討	問題点・課題	今後の対応
		1. ダンプトラックや誘導員不足の対策 【問題点】 昨シーズンは全道的に大雪となり、排雪用のダンプトラックや交通誘導員の手配が困難であった。 【課題】 排雪用のダンプトラックの需要が増えた状況において、ダンプトラック及び交通誘導員の確保の方法について検討が必要。	1. ダンプトラック及び交通誘導員の確保 2. 排雪作業を効率よく実施するための体制の見直し
		2. 排雪作業を効率的に実施するための体制 【問題点】 大雪による排雪量の増加、及びダンプトラックの不足により、排雪作業の進捗に遅れが生じた。 【課題】 効率よく排雪を実施するため、排雪班の数や排雪工区の見直しなどについて、検討が必要。	具体的な実現方策 【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】 ●ダンプトラックや交通誘導員の確保については、借上げダンプの数や日数の見直し、誘導員もセットで確保するなど、新たな視点で検討を進める。 ●排雪作業をより効率的に行うために、排雪班の数や排雪工区などの見直しの検討を進める。

		問題点・課題	今後の対応
検証項目(2) 持続可能な除排雪体制の確立	② 雪堆積場の増設や空き地利用の検討	1. ダンプトラックのサイクルタイム向上のための堆積場の増設 【問題点】 雪堆積場から遠い場所では、運搬排雪に時間がかかり、排雪作業の効率が悪くなることから、多くのダンプトラックが必要となる。 【課題】 少ない台数のダンプトラックで効率よく排雪作業を行うために、運搬排雪のサイクルタイム向上が見込める、市街地近郊の新たな雪堆積場の確保が必要。	1. ダンプトラックのサイクルタイム向上のための新たな雪堆積場の検討 2. 雪入れ可能な民有地などの活用
		2. 雪入れ可能な空き地（民有地）の活用 【問題点】 道路の圧雪が厚くなった場合、路面整正作業により圧雪を削り、道路際に堆積していくが、住宅が密集した地域では、雪の堆積スペースの確保が難しくなっている。 【課題】 公共用地や公園などへの雪入りの検討の他に、空き地（民有地）への雪入れについても検討が必要。	具体的な実現方策 【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】 ●ダンプトラックのサイクルタイム向上が見込める、市街地近郊の新たな雪堆積場の確保について検討を進める。 ●地域と連携して、雪入れ可能な民有地などを活用できる仕組みについて検討を進める。
	③ 除排雪作業の安全対策の強化の検討	問題点・課題	今後の対応
		1. 大雪時の安全対策 【問題点】 昨シーズン発生した2件の事故は大雪の除排雪作業時に発生しており、連日の作業によるオペレータの肉体的疲労とそれに伴う注意力の欠如が原因と考えられる。また、大雪時に対応可能な人員の不足により、長時間労働となってしまったことも一因と考えられる。 【課題】 労働基準法の遵守はもちろんのこと、道路維持組合内部の連携と、持続可能な除排雪体制の見直しや人員の確保について、短期・中長期的な視点で対策を検討することが必要。	1. 道路維持組合内部の連携と、持続可能な除排雪体制の見直し 2. オペレータなどの人員確保と、作業負担の軽減 3. 定期的な安全大会と、安全パトロールの強化 具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●シーズン中の安全大会と、安全パトロールの実施を徹底し、安全対策の強化を図る。 【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】 ●道路維持組合内部の積極的な連携と、持続可能な除排雪体制の構築を目指す。 ●オペレータなどの人員確保及び負担軽減策については、事業者とともに中長期的な視点で取り進める。

		問題点・課題	今後の対応
検証項目(2) 持続可能な除排雪体制の確立	④市民への除排雪に関する情報発信の検討	1. 市民からの苦情や問い合わせに対する対応 【問題点】 例年、除排雪に関する苦情・問い合わせとして、 ・除雪後の出入口の雪の処理 ・角地の雪山による見通しの悪さ ・近隣住民による道路への雪出し行為などのマナー違反 ・除排雪作業に支障となる迷惑駐車などの指導 などが多く寄せられている状況である。 【課題】 除排雪のルールやマナー、市の取り組みや除雪センターからのお知らせなど、情報発信について検討が必要。 2. 市や除雪センターの苦情受付の体制 【問題点】 大雪時には、市民から苦情の電話が多数寄せられ、除雪センターの電話がつながりにくい状況であった。また、市に対しても多くの苦情が寄せられ、中には長時間に渡っての苦情や厳しい言葉を浴びせられるなど、業務に支障をきたし対応に苦慮する場面が多かった。 【課題】 除雪センターへの問い合わせ方法の改善と市への苦情の対応について検討が必要。	1. 除排雪についての市広報やHPによる市民への周知 2. LINEを活用した除排雪情報の発信 3. 迷惑駐車と道路への雪出し行為に対する啓発活動の実施 4. 除雪センターへの問い合わせ方法の検討 5. 市役所への問い合わせの効率化 具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●除排雪のルールや、お知らせなどを掲載した「（仮称）除排雪ガイド」を作成し、市民に対して除排雪作業への理解と協力をお願いする。（令和4年第3回定例会補正予算） ●除排雪作業のお知らせについて、市広報やHPにより、積極的に周知するよう努める。 ●路上駐車や雪出し行為などのマナー違反についての啓発活動を実施する。 ●除雪センターの電話回線の増設や音声ガイダンスの導入などの検討を進め、市民からの電話の繋がりにくさの解消を図る。 ●市公式LINEによる除排雪情報の発信方法について検討を進める。 ●通話品質の向上を目的として、維持担当の電話に着信時音声ガイド付きの自
	⑤その他持続可能な除雪体制の検討	問題点・課題 1. 消融雪補助の創設 【問題点】 融雪槽を設置する市民の増加に伴い、設置費用に対する補助制度を望む声が増えている。 【課題】 財源の確保を含め、別途、慎重な検討が必要。 2. 郊外の除雪方法の見直し 【問題点】 郊外における大雪や吹雪の際には、除雪をしてもすぐに元の状態に戻り、作業効率が悪くオペレータの負担になっている。 【課題】 荒天時は通行止めとする検討が必要。また、利用頻度の少ない路線は、未除雪路線とする検討が必要。 3. オペレータの確保について 【問題点】 ほとんどの除雪事業者において、将来的に除雪作業を担うオペレータの不足に不安を感じている。 【課題】 官民一体で、オペレータ確保と負担軽減の検討が必要。 4. 市で除雪機械を確保し貸与することについて 【問題点】 各除排雪事業者では除雪専用の機械について、自社での所有や更新が難しい状況にある。 【課題】 市で必要な除雪機械を購入し、除雪事業者へ貸与できるよう、国の交付金等を利用した更新・増強の計画的な検討が必要。	今後の対応 1. 融雪槽を設置する市民への補助制度創設の調査・研究 2. 郊外の荒天時危険路線や未除雪が可能な路線の調査 3. オペレータの確保や負担軽減についての対策 4. 除雪機械更新計画に沿った除雪機械の購入 具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●除排雪事業者からの聞き取りにより、郊外の荒天時危険路線及び利用頻度の少ない路線の未除雪について調査する。 【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】 ●融雪槽を設置する市民への設置費用に対する補助制度の創設について、調査・研究を進める。 ●除排雪事業者と共に官民一体で、オペレータの確保や除雪技術の継承など将来に向けての取り組みを進める。 ●除排雪事業者の要望などから、必要な除雪機械を選定し、計画的に除雪機械の更新・増強を進める。

		問題点・課題	今後の対応
検証項目(3) 関係各所との連携	①連携が必要な関係各所の整理と対策	1. バス路線の対策（北海道中央バス株式会社との連携） 【問題点】大雪時にはバス路線の除雪や拡幅を優先して行うが、最低限バスの通行が可能な状態まで除雪したと判断していても、北海道中央バス株式会社（以下「中央バス」という。）の判断で運休としたケースが幾度かあった。 【課題】より効率的に除雪を行うために、バスの運休基準について市と中央バスで協議を行い、問い合わせ窓口の一元化についても検討が必要。	1. 中央バス・企画課交通担当との連携による大雪時のバス交通の検討 2. ごみ・リサイクル課との連携による大雪時のゴミ収集方法に対する検討 3. 石狩消防署との連携による大雪時の緊急車両の通行についての情報共有 4. 教育委員会との連携による大雪時の通学路等の検討 5. 高齢者支援課との連携による高齢者世帯への対策 6. 公共施設除雪の見直し 7. 警察や町内会との連携による民間排雪業者、及び迷惑駐車・雪出し行為への指導
		2. ゴミ収集車の対策（ごみ・リサイクル課との連携） 【問題点】昨シーズンはザクザク路面により生活道路へのゴミ収集車の進入が厳しい状況となり、収集業務に支障が生じた。 【課題】車がスタックするような路面状況の場合、その解消までの見込みや、それまでの収集方法などについて担当課と協議が必要。 3. 緊急自動車の対策（石狩消防署との連携） 【問題点】大雪時には、除排雪が間に合わないことにより、消防車や救急車など緊急車両の通行に支障が生じることが想定され、生命の危険につながる恐れがある。 【課題】大雪時の対応について石狩消防署と情報の共有が必要。 4. 通学路など学校付近の除雪方法について（教育委員会との連携） 【問題点】大雪時、学校付近の道路において、児童・生徒が狭い車道や、除雪されていない歩道の雪山を乗り越えて通学するなど、危険な状況が見受けられた。 【課題】教育委員会と連携し、登下校時の除雪状況についての情報の共有や、学校から児童・生徒への指導が必要。 5. 高齢者世帯などの対策について（高齢者支援課との連携） 【問題点】高齢者からの除排雪の相談が増えてきている。 【課題】高齢者支援課で行っている事業との連携や、高齢化が進む状況下での、新たな対応策について検討が必要。 6. 公共施設除雪の見直しについて（対象部署との連携） 【問題点】近年、関係各所から依頼されている公共施設除雪が、道路除雪の作業を圧迫している状況である。 【課題】公共施設の除雪については除雪範囲の見直しを含めた検討が必要。 7. 迷惑駐車や道路への雪出し行為、及び民間除排雪業者の指導の対策（警察や町内会との連携） 【問題点】、除排雪の妨げとなる迷惑駐車、通行の支障となる道路への雪出し行為や、民間排雪業者による道路や公園への雪出し行為などの通報が後を絶たない。 【課題】これら迷惑行為に対し、警察や町内会と連携した指導などの対応について検討が必要。	具体的な実現方策 【今シーズンより実施】 ●中央バス・企画課交通担当と連携し、大雪時のバス路線における除雪基準や問い合わせ窓口の一元化などの協議を行う。 ●ごみ・リサイクル課と連携し、大雪時には、ゴミ収集業務に影響を及ぼす路面状況の共有やゴミ収集方法についての協議を行う。 ●石狩消防署と連携し、大雪時の緊急車両の通行に影響を及ぼす路面状況及び通行を確保する方法について情報共有する。 ●教育委員会との連携により、大雪時に歩行可能な通学路の設定、及び学校から児童・生徒への指導内容について共有する。 ●警察や町内会との連携により、悪質な民間除排雪業者への指導と、迷惑駐車・雪出し行為に対して注意喚起の啓発活動を実施する。 【中・長期的な取り組みとして継続的に検討】 ●高齢者支援課との連携により、将来に向けた高齢者世帯の除雪対策について検討を進める。 ●関係各所と協議し、公共施設除雪の見直しを行う。

5 大雪時の対応

【大雪の判断基準】

【Case1 短期的な大雪の対応】

- ①一度に20cm以上の降雪があり、なおも降り続く予報のとき
- ②2日以上連続して10cm以上の降雪があったとき
- ③暴風雪、大雪警報が発表されたとき

【Case2 長期的な大雪の対応】

- ①過去5年平均の積雪深を概ね20cm以上超えた期間

大雪の判断は上記ケースを標準とし、大雪除排雪体制へシフトへの準備を進める。

大雪除排雪体制へシフトすることが決定した場合、市民に対してHPや市公式LINEなどで大雪時対応を行う旨の情報提供を行う。

大雪除排雪体制【Case1】

①大雪時の除雪の優先順位

- ・幹線道路は、マニュアルに従い優先度の高いバス通りなどの重要路線の除雪を実施し、道路交通の確保を第一に、通勤・通学時間帯までの作業終了を目指す
- ・歩道除雪は、設定した歩道の優先順位に従い除雪を実施

②その他大雪時の除雪体制

- ・郊外の荒天時危険路線については、一時作業を中断して通行止めにするなど、速やかに危険を回避する措置を実施

③大雪時の応援体制や連絡体制強化

- ・道路維持組合内の連携による除雪を実施
- ・連絡体制の強化やGPSシステムの活用により、除雪が遅れている路線を把握し、早急な対応を実施
- ・「建設水道部道路パトロール班」を設置し、的確な作業指示を実施

④関係各所との連携

- ・中央バス・企画課交通担当と連携し、バスの定時運行確保を目指す
- ・ごみ・リサイクル課と連携し、ごみの収集業務に影響のある路線の路面状況を共有し、早期の対応を図る
- ・石狩消防署と連携し、緊急車両の通行に影響のある路線の路面状況を共有し、早期の対応を図る
- ・教育委員会と連携し、通学路の除雪状況について共有し、児童・生徒の安全

大雪除排雪体制【Case2】

※【Case1】の対策を講じつつ、主に圧雪管理と排雪作業への取り組みを強化

①大雪時の圧雪管理

- ・幹線道路は、雪堤が高くなる前に全排雪を実施
- ・準幹線道路は、学校のグラウンドなどを利用し、生活道路のザクザク路面を処理した雪の一時堆積場所としての利用を見据えた排雪を実施
- ・生活道路は、公園や準幹線道路などへ一時堆積を行うなど、早期の圧雪路面解消を図る

②大雪時の排雪作業の対応

- ・道路維持組合内の応援体制について連携を図り、排雪作業のスピードアップを図る
- ・国などへダンプトラック支援を要請し、排雪作業のスピードアップを図る
- ・緊急雪堆積場として雪入れ可能な公園・グラウンド・調整池など利用し、排雪作業のスピードアップを図る
- ・交通量の多い日中でも幹線道路の排雪を実施